

2020年8月1日
北近畿経済新聞(3面)に掲載されました



19
忍耐とは希望であると
定義しよう
言葉の解釈を前向きに

忍耐といえは、「つらさや苦しさ、怒りをじっと我慢すること」といった意味が、すぐ頭に浮かびますが、これをビジネス用語として解釈するとき、次のように改めてみてはいかががでしようか。

- つまり、忍耐とは、
①どんな小さな仕事にも誇りを持ち、そこから生まれた体験を大きな仕事の夢に結びつけること。
②辛抱強く次のチャンスを待ち、スランプを克服すること。
③他人の中傷や誤解を耐え、自分の役割に信念を持って遂行すること。
いかがですか。このように定義すれば、忍耐も前向きに受け止められますね。

仕事が厳しい、目標が達成できない、我慢はじつと我慢を決めるとどうのは誰しも経験のあることですが、そんな場合も自分を成長させるいいチャンスだと考えたいものです。
あの手、この手と考えて、目標、あるいは希望を得るためにトライしていく。換言すれば忍耐は希望を得るための技術であると定義できましよう。

日本で最初にノーベル賞を受賞されたのは、京都大学の湯川秀樹博士ですが、テレビ番組での対談で「長い夜を泣き明かしたことはない人間に、人生を語る資格はない」というようなことを語られていました。以降、新たな発見をされたり偉業を達成された方々のコメントにも、これに近い印象を受けることがありますね。忍耐は希望に通じるという共通項なのでしょう。

※「人生の「ねじ」を巻く77の教え」より転載



人生の「ねじ」を巻く77の教え
著者 日東精工株式会社 企画室
発行所 株式会社ポプラ社
一、〇〇〇円税別で販売中